

平成27年度 第43回 千葉県中学校バスケットボール選手権大会 総評

千葉県バスケットボール協会主催の第43回千葉県中学校バスケットボール選手権大会は6月6, 7, 13, 14日の4日間、君津市民体育館をメイン会場に行われた。今大会は、夏の総体や秋の新人戦に比べて、各支部から多くのチームが参加できる大会であったが、昨年度より各地区からの出場チーム枠が増やされて、全56チームのトーナメントで競う大規模大会となった。各地区のより多くの選手たちの活躍が見られる大会となっている。

男子は、新人戦でベスト4に残ったシード校の八千代松陰中(八千代)、辰巳台中(市原)、土気南中(千葉)に加え、シード校を破って勝ち上がった西志津中(印旛)が残った。男子準決勝の八千代松陰中对土気南中は、新人戦と同じ準決勝カード。土気南中は④古賀、⑥伊集院、⑬森倉のシュートで八千代松陰中に迫るも、最後までシュートを確実に沈めた八千代松陰中がリードを守りきり決勝進出を決めた。西志津中对辰巳台中では、西志津中の④高椋、⑥篠塚の鋭いドライブと、⑤岩満の巧みなボールハンドリングからのシュートで後半には辰巳台中に2点差に迫る場面もあったが、力強いゴール下を誇る辰巳台中がリードを広げ、決勝に進出した。

新人戦と同カードとなった男子決勝戦。序盤はお互いにハーフコートマンツーマンディフェンスでスタート。お互いに激しいプレッシャーをかけ続けるディフェンスで一進一退の攻防が繰り広げられた。八千代松陰中は、④工藤のミドルシュートがよく決まり、得点を重ねていく。対する辰巳台中は、④葉丸のドライブ、⑥兼重のインサイドプレーを中心に得点を重ねていく。ディフェンス、オフェンスともにリバウンドを制し制空権を得た辰巳台中が終始リードを守り前半を折り返す。八千代松陰中は⑦松岡の連続スリーポイントで4点差まで追い立てるも、リバウンドを制する辰巳台中が逃げ切り、新人戦の雪辱を果たし優勝を決めた。

女子のベスト4には、新人戦に続く連覇と今大会6連覇をねらう昭和学院中(市川・浦安)、新人戦準優勝の海神中(船橋)、そしてノーシードながら強豪を破って勝ち上がってきた干潟中(東総)、昭和学院中と同地区で地区決勝戦のリベンジを狙う堀江中(市川・浦安)が名を連ねた。今大会、女子で東総地区がベスト4に勝ち上がるのは実に32年ぶりの快挙である。

女子準決勝の昭和学院中对干潟中では、挑戦者の干潟中が力強く思い切りの良いバスケットが光り、昭和学院中に迫るも、徐々に開いた差が縮まらず昭和学院中が決勝へと駒を進めた。また、堀江中对海神中の対戦では、残り9秒、堀江中が④玉田のステップインからのシュートで大逆転、わずか1点差で決勝進出を決めた。

市川浦安地区対決となった決勝戦。昭和学院中は、④池見のドライブ、⑥西江瑠加也のポストプレイなどで着実に得点を積み重ねる。対する堀江中は、⑤北出のジャンプシュートと④玉田のゴール下で応戦する。第2Q、堀江中のディフェンスが機能し始めると、昭和学院中の得点が止まる。しかし、序盤でついた11点差はなかなか縮まらずに後半に入る。第3Q、両チームともオールコートマンツーマンで激しいディフェンスを繰り広げ、互角の展開が続く。第4Qに入ると、昭和学院中は⑤山田、⑦宮城、⑧ダリングらもバランスよく得点を重ねその差がさらに開いていく。堀江中も④玉田のポストプレイなどで何とかリズムをつかもうとするも、そのままリードが開き試合終了。昭和学院中が、6年連続優勝を果たした。

最後に、今大会は、木更津、袖ヶ浦、君津、富津の4市3支部のチームワークにより細部に渡り心配りの見られる大会となりました。開催地である支部の役員、関係者の皆様のご尽力により大会を無事終えることができました。同時に、県大会には出場できなかったものの、生徒役員という形で駐車場係、TO、接待などを意欲的に取り組んでくれた開催地のバスケットボール部の生徒たちにも感謝いたします。

男子 優勝 市原市立辰巳台中学校
準優勝 八千代松陰中学校
第3位 佐倉市立西志津中学校 千葉市立土気南中学校
ベスト8 印西市立印旛中 千葉市立打瀬中 船橋市立葛飾中 千葉市立磯辺中

女子 優勝 昭和学院中学校
準優勝 浦安市立堀江中学校
第3位 船橋市立海神中学校 旭市立干潟中学校
ベスト8 千葉市立稲浜中 市川市立第三中 市川市立第七中 船橋市立船橋中

文責 県中学生バスケットボール連盟 中村 圭吾(四街道中)